

未来甲賀市2022

若者政策アイデアコンテスト

— 各参加者の提案 概要版 —

令和4年11月19日(土) 開催

碧水ホール

52名13チームの若者が政策アイデアを競うコンテスト

▼参加者の提案内容

- ① 目指す理想の姿 **「未来の甲賀市」像**
- ② 立ちふさがる問題を解決 **来年の政策**
- ③ 政策を具体化して見積もった **予算**

ビジョン

熱意、独創性 など評価

地域性、新規性 など評価

実現可能性 など評価

9-11月立案期間

11.19
発表

▼提案内容の模式図

2023年

②重点政策

③その予算

2022年
現在の甲賀市

23年

政策

30年

政策で
改善

政策

35年

政策で
改善

2040年ころ

①未来の甲賀市

政策で
改善

理想の実現に
立ちふさがる

甲賀市の **問題**

実現したい「未来の甲賀市」のビジョン/解決したい「2022年の甲賀市」の問題

チーム名:生涯こうか宣言!

- 実現したい「未来の甲賀市」のビジョン (理想像) をキャッチコピーとして表現してください。

甲賀市で生まれた子どもたちが、大人になっても (どの世代になっても) すべし甲賀市に住み続けたいと思える街

- 実現したい「未来の甲賀市」のビジョン (理想像) 具体的に説明してください。(市民の暮らしぶりや何に幸せを感じているか、市内でどんな光景が見られるか、など)

すべてのライフステージに優しい、住みやすい街にしたい!!!

今あるものを活かす
政策で明るい未来を!



- 実現したい「未来の甲賀市」と比べて「2022年の甲賀市」の問題は何ですか? その原因は何ですか? 調査結果なども交えて説明してください (最大3つ)。

一 甲賀市で子育てしたい!! と思える
魅力が知られていない (届いてない)

一 仕事を続けたいから子育てがしたい!!
でも、子どもを預けやすい場所が少な
い。子どもの病気で保育園に行けな
い。子ども元気になれば、仕事に
どたい!!

病後見保育を使いやすくして
ほしい!!!

一 公共交通機関は本数が少なくて
「使っている人が少ない、いい」イメージ
が定着してしまっている。
車に乗れない世代 (子ども~学生~高齢者)
の移動が不便である。

一 少子高齢化がすすみ、
子どもたちの集団下校が減っていく
子どもたちの登下校が安全面で不安

公共交通機関を使いやすくして
ほしい!!!

一 甲賀市の人口は多様化してきている。
とって良いこと!! だけど

“もしも”の時、甲賀市は大丈夫??

一 災害、そして防災は、
甲賀市に住む全てのひとの問題。
安心、安全に住める街がいい。

防災に強い街にしたい!!!

- 「2022年の甲賀市」の問題を解決する政策の名前を記載してください (最大3つ/スペースがあればごく簡単に内容も説明してください)。

子育てと仕事
両立できる街こうか

“みんなのバス”で
安全に移動できる街こうか

中学生が
防災リーダーな街こうか

裏面に続きませう

POINT! ● 「2023年から始める重点政策」(最大3つ)がどのように「2022年の甲賀市」の問題を解決して、「未来の甲賀市」のビジョンを実現させるのか?説明してください。

病後児保育の
利用が簡単に

母子手帳アプリの
活用

バス通学で
コシバス活用

通学手段を
えらべるように!

なぜ
中学生??

中学生が学び体験し、
地域のひとへ教える。

事前登録や予約確認
利用までのステップを減らす。

母子手帳
アプリの普及
病後児
保育の
普及
デジタル化の推進
行政サービスがもっと身近に
使用しやすくなる!!

コシバスの周知につなげる。
学生や若者が積極的に
使用するエラいにはれば、
活気のあるバスに!!

集団下校のかわりに、
安全に通学できる手段を
えらべるエラにする。
“公共交通機関”の
職員、乗客みんなが
見守ることが出来る。

中学生(子どもだけ、子どもじゃない)
きちんと知識を学んでいれば
自分の身を自分で守れるエラになる。

中学生がリーダーとして、
地域へ声をあげることで
防災への関心が高まり、
知識周知にも!!

お父さんお母さんの
負担(減)!!

子育てしやすいエラ!!
仕事への時間やお父さん
お母さんの休む時間を
ふくれる!!

みんなの「コシバス」で
安全に通学できるエラにする

甲賀市みんなが
防災について考えるきっかけになる

● 「2023年から始める重点政策」(最大3つ)ごとに、かかる費用(予算)の総額と、だいたいの内訳を説明してください。

母子手帳アプリ

既存の母子手帳アプリ中に登録される
(家族情報、病歴、アレルギー、接種履歴)

そのま事前登録におきかえること
で対応が可能!とあるため追加費用なし!!

219774 2022-11-09 12:11:17 mt201098

公共交通機関に在る通学にかかる費用の補助

(現在) 家から学校まで
小学校 4km以上 全額補助
中学校 6km以上 3分の1補助
(新しい政策)
→ 3km以上おは、
集団下校できない
地域
→ 4km以上

必要となる費用
小学校 補助金(¥10800) × 67月定期
中学校 補助金(¥9900) × 上記に言及する人2
バス通学を
希望する生徒数

中学生への防災教育

→ 市役所専門課に在る出前講座を行う。

防災体験等に必要な備品

→ 各中学校、市役所。
既存のものを使う。(実際の災害時を
想定)

- 実現したい「未来の甲賀市」のビジョン（理想像）をキャッチコピーとして表現してください。

キッザニア甲賀構想 ～可能性が広がる三位一体(市・学校・企業)の新しいキャリア様式～

- 実現したい「未来の甲賀市」のビジョン（理想像）具体的に説明してください。（市民の暮らしぶりや何に幸せを感じているか、市内でどんな光景が見られるか、など）

現在の職業体験制度を抜本的に見直し、子ども達にとって、本当に視野が広がり、
 本当に未来が見出せる、
 本当に可能性が芽吹く、
 本当に学問に向き合える、
 そんな経験や体験ができる 新たな制度を作ります。それが問題解決の糸口です。

- 実現したい「未来の甲賀市」と比べて「2022年の甲賀市」の問題は何ですか？その原因は何ですか？調査結果なども交えて説明してください（最大3つ）。

人口減少	:	学校がない	:	学力偏差値が低い
人口流出	:	働く場所がない	:	シビックプライドが希薄
生産年代	:		:	
子どもの減少	:		:	

- 「2022年の甲賀市」の問題を解決する政策の名前を記載してください（最大3つ／スペースがあればごく簡単に内容も説明してください）。

キッザニア甲賀構想		キッザニア甲賀構想		キッザニア甲賀構想
若者世代の定住を狙います	:	学びと発見、選択肢を増やします	:	ヒューマンパワーを高めます

- 「2023年から始める重点政策」（最大3つ）がどのように「2022年の甲賀市」の問題を解決して、「未来の甲賀市」のビジョンを実現させるのか？説明してください。

①政策名：キツザニア甲賀構想

②目的：前述した問題全ての解決

③受益者：全市民（主に若者世代）

④不利益を受ける層はなし

⑤2023年から着手しトライ&エラーをしながら継続

⑥現在の職業体験制度を抜本的に見直し新たな制度にします

- 「2023年から始める重点政策」（最大3つ）ごとに、かかる費用（予算）の総額と、だいたいの内訳を説明してください。

三位一体での会議のみで
特別な予算はかかりません

- 実現したい「未来の甲賀市」のビジョン（理想像）をキャッチコピーとして表現してください。

若者と地元企業をつなげたい！！

- 実現したい「未来の甲賀市」のビジョン（理想像）具体的に説明してください。（市民の暮らしぶりや何に幸せを感じているか、市内でどんな光景が見られるか、など）

甲賀市出身の若者が、甲賀市に誇りと愛着を持って、住み続ける、帰ってくる。
それと同時に甲賀市の産業を支える製造業がより一層発展している。

- 実現したい「未来の甲賀市」と比べて「2022年の甲賀市」の問題は何ですか？その原因は何ですか？調査結果なども交えて説明してください（最大3つ）。

①未来の甲賀市と比べて
2022年の甲賀市に不足し
ているモノや人の仕組み

②なぜ不足しているのか？
その原因

③原因特定までに行った独自
調査や文献調査から重要な
数字や証言など

→地元の仕事を知る機会不足

→成人式のアンケート

→地元に残って仕事をする人
の数



- 「2022年の甲賀市」の問題を解決する政策の名前を記載してください（最大3つ／スペースがあればごく簡単に内容も説明してください）。

インターン

:

社会人メシ

- 「2023年から始める重点政策」（最大3つ）がどのように「2022年の甲賀市」の問題を解決して、「未来の甲賀市」のビジョンを実現させるのか？説明してください。

- ①政策名：1泊2日のインターンシップ
- ②政策が解決する問題や目的
問題:深刻化した製造業の人出不足
目的:学生と企業をつなぎ、地元製造業のさらなる発展を目指す
- ③利益を受ける市民：製造業で働く人、就活生
- ④不利益を受ける市民：なし
- ⑤2023年からいつまで続けるか：初年度の実績により決定
- ⑥具体的な内容：
 - ・1日目はいつも通りインターン
 - ・2日目はバスツアーなど街を知れるようなイベントへの参加→1日目、それぞれの会社にいった人が2日目集まって情報交換してもらう
 - ・1泊2日にすることで旅行など遊びに行く先の候補に入れてもらう



- 「2023年から始める重点政策」（最大3つ）ごとに、かかる費用（予算）の総額と、だいたいの内訳を説明してください。

- ⑦政策の予算総額:170万円
- ⑧政策の大まかな予算内訳
事前準備:130万円(募集にかかる費用、キャリアカウンセラーの業務委託等)

- ①政策名：社会人メシ
- ②政策が解決する問題や目的：「人間関係」への心配を減らす
- ③利益を受ける市民：就活生・社会人メシを受けた企業
- ④不利益を受ける市民：なし
- ⑤2023年からいつまで続けるか：初年度の実績により決定
- ⑥具体的な内容：
 - ・会社説明会
 - ・若手社員や社長、学生とのディスカッション



- ⑦政策の予算総額：20万円
- ⑧政策の大まかな予算内訳
年間4回、各回学生30人前後、企業側10人前後、20万(飲食代の補助)

- 実現したい「未来の甲賀市」のビジョン(理想像)をキャッチコピーとして表現してください。

自他共楽の世界！～私の居場所は、甲賀の良居場所～ いいばしょ

- 実現したい「未来の甲賀市」のビジョン(理想像)具体的に説明してください。市民の暮らしぶりや何に幸せを感じているか、市内でどんな光景が見られるか、など)

平凡な暮らしができるくらいの仕事や生活に安定があり、みんなが顔見知りで、挑戦する人を応援したり、自分が挑戦する人であったりと、魅力ある「自分らしさ」を持った人をたくさん増やす。それが私たちの目指す、わたしもあなたも共に楽しみを分かち合える自他共楽の世界です。

- 実現したい「未来の甲賀市」と比べて「2022年の甲賀市」の問題は何ですか？その原因は何ですか？調査結果なども交えて説明してください(最大3つ)。

2040年 未来の甲賀市 | 市民みんなが顔見知りで、人との繋がりがや関わりを大切にできるまち
課題・仮説 | 現在、市内で顔見知りの関係性は少ない
調査結果 ▼

- 自分の付き合いの中ではたくさん顔見知りの関係性があるが市内全体的に顔見知りがあるわけではない
- 家族や職場以外での人との親密さはあまり高くない

<市民の声ピックアップ>
 「3年前まであった地域の寄合いがなくなった」
 「SNSでの情報発信が中心になっているのでSNSをされてない方の情報を知ることは難しい」
 「移住者や転入者はどこに行けばいいのであろう？」

<顔見知りの関係性を築くために>
 ①多様、多目的な市民同士の出会いの場を作る
 ②催しや行事などを通じて、市民同士の交流の場を作る
 ③市民にとって、家族や職場以外で親密な関係を持った人のいる第3の居場所を作る

2040年 未来の甲賀市 | 市民が自分のやりたいことで自己の仕事や生活に安定感のある暮らしができるまち
課題・仮説 | 現在、仕事や生活の安定感はあまりない
調査結果 ▼

- 自分の生活や子供の将来の生活に不安を抱えている
- 好きなことを仕事にすると収入面での不安がある

<市民の声ピックアップ>
 「希望の職で生活するのは難しいと思う」
 「やりたいことに時間を使いたいけど、生活するためにバイトをして結局やりたいことをする時間が少ない」
 「子供の将来を考えると安定はしているとは言えない」

<暮らしの安定および精神的な安定を図るために>
 経済活動を活発にさせること、社会保障制度を充実させることも重要であるが、市民ひとりひとりが「自分のやりたいことを表現できる力」を身につける環境を作ること暮らしと精神の安定につながる。

2040年 未来の甲賀市 | 市民が自分のやりたいことに挑戦でき、市民同士で応援しあえる環境が整ったまち
課題・仮説 | 現在、挑戦・応援がしやすい環境は少ない
調査結果 ▼

商工会や市の推進課などを知っている人はいるが、ほとんどの人は挑戦したり、挑戦を応援する環境の存在を知らない

<市民の声ピックアップ>
 「子ども(若い世代)の夢を応援できる環境や、夢に向かって挑戦できる環境が欲しい」
 「敷居を低くして、誰でも気軽に入れるようなのが理想」
 「自発的に調べないとその環境は見つからない」

<挑戦と応援がしやすい環境をつくるために>
 「挑戦する人」と「応援する人」をつなげる役割を担う「つなげる人」を設けることで甲賀市民が挑戦や応援のしやすい環境を創出する

- 「2022年の甲賀市」の問題を解決する政策の名前を記載してください(最大3つ／スペースがあればごく簡単に内容も説明してください)。

あなたとわたしは顔見知り！
 官民共同運営によるコミュニティラウンジ計画

いろんな魅力を持った市民が一つの空間で交流することで市民みんながお互いに顔見知りになる環境を作ります。

”わたし”を自由に表現するための
 移動式創造空間「SOLA」計画

いろんな魅力を持った市民が「自分のやりたいこと」を自由に表現できる場を作り、自己のやりたいことで仕事と生活が安定する環境を作ります。

挑戦・応援がしたいあなたをまるっとつなげる
 「地域コーディネーター制度」

「挑戦したい人」と「応援したい人」の橋渡しをする地域コーディネーターを設けることで、市内にチャレンジが溢れた環境を作ります。

●「2023年から始める重点政策」(最大3つ)がどのように「2022年の甲賀市」の問題を解決して、「未来の甲賀市」のビジョンを実現させるのか？説明してください。

あなたとわたしは顔見知り！ 官民共同運営によるコミュニティラウンジ計画

<対象>市民全員 例 | ・貴生川駅を利用する学生や社会人
・子育て仲間をつくりたい親世代
・イベントや企画をつくりたい市民

<目的>市民同士が顔見知りの関係性を築く環境をつくる

<政策期間>2023年～2038年の15年間
(5年間は、施設建設期間。10年間はコミュニティラウンジの運営期間
(以降、運営は10年ごとに検討))

<概要>
コミュニティラウンジ&Meとは、コワーキングスペースエリア・レンタルスペース・コミュニティカフェなどを兼ね備えた複合施設。

<施設が持つ4つの特徴>

- ①1つの施設を行政と民間が共有することで、公共性と利便性、敷居の低さを兼ね備えたイトコドリの施設に
- ②仕事・勉強・カフェ利用・送迎待ち・イベント参加など多様な目的で訪れる市民同士の出会いの場に
- ③施設で開催するイベントを通じて市民の交流の場に
- ④日常的な利用と継続的なイベントから人と人の繋がりを続けることで、本施設が市民にとっての第3の居場所に

”わたし”を自由に表現するための 移動式創造空間「SOLA」計画

<対象>
自分のやりたいことを表現したい市民
特に「自分の好きや得意を仕事にしたい」と奮闘する若者

<目的>市民の暮らしの安定および精神的な安定を図る

<政策期間>2023年～2038年の15年間
(5年間は、施設制作と実用試験など実用化に向けての準備期間。
10年間は、移動式創造空間「SOLA」としての実用期間)

<概要>
移動式創造空間「SOLA」は6畳ほどの移動式トレーラーハウス。甲賀市内の好きな場所に移動させることが可能で、市民の好きを表現するために使える移動型多目的公共施設である。本施設は、365日、使いたい人が予約制で使うことができる。

<施設が持つ5つの特徴>

- ①何もない空間が持つ特性を活かし、市民の表現の場へ
- ②移動する特性を活かし、多様な人の目に触れる機会に
- ③民間企業と地域コーディネーターによる伴走型支援
- ④公共施設にあるような収益化の制限を設けない。
- ⑤施設利用料は、固定ではない。

挑戦・応援がしたいあなたをまるっとつなげる 「地域コーディネーター制度」

<対象>
地域コーディネーターになりたい甲賀市民。
人が好きで、地域が好きで、甲賀の人と地域に関わることに生きがいを持っている人。

<目的>市民が挑戦や応援しやすい環境をつくる

<政策期間>2023年～2038年の15年間

2023年～2027年：地域コーディネーター養成期間

◎地域コーディネーター候補者のチームづくり
地域コーディネーターとして何ができるか、自分たちの将来像を民間企業と行政職員と定期的に話し合う。

◎地域のつながりづくり(通称”つながりリスト”制作)
地域コーディネーターとしてのネットワーク構築と、人との繋がり見える化を行う。

2027年～2038年：地域コーディネーター期間

◎よろず相談ワークショップを実施する
コミュニティラウンジ &Meや市内の地域市民センター等施設で、各々の得意分野の相談会を定期的に開催

◎人と人をつなげるリンクワーカー
“つながりリスト”を用いて地域で挑戦したい人と応援したい人を繋げる

◎各自治体に出向いて上記2点を実施する
◎移動式創造空間「SOLA」での伴走支援

●「2023年から始める重点政策」(最大3つ)ごとに、かかる費用(予算)の総額と、だいたいの内訳を説明してください。

予算総額：1億400万円(15年間)

予算内訳：

- ①建物建設費用 2,500万円(民間)
- ②初年度の自走資金 300万円(民間)
- ③運営補助費 年間240万円×15年=3,600万円(行政)
- ④コミュニティラウンジで働く市役所職員人件費
年間400万円×10年=4,000万円(行政)

予算総額：2,800万円(15年間)

予算内訳：

- ①移動式トレーラーハウス設置費 500万円(行政)
- ②移動式トレーラーハウス内装設備費 500万円(行政)
- ③運搬にかかる費用 1500万円(行政)
1回移動20,000円×5週(1ヶ月)×12ヶ月(1年)×15年間

※施設完成後の施設の維持費は民間負担。

予算総額：5,270万円(15年間)

予算内訳：

- ①地域コーディネーター養成期間 1,620万円(行政)
・参加者交通費 1人あたり年間12,000円×20人×5年=120万円
・人件費(プログラム運営事務局) 年間200万円×5年=1,000万円
・プログラム運営費 年間100万円×5年=500万円
- ②地域コーディネーター期間3,650万円(民間)
・人件費(地域コーディネーター) 年間365万×10年=3,650万円

- 実現したい「未来の甲賀市」のビジョン（理想像）をキャッチコピーとして表現してください。

ためきが疾走るまち

- 実現したい「未来の甲賀市」のビジョン（理想像）具体的に説明してください。（市民の暮らしぶりや何に幸せを感じているか、市内でどんな光景が見られるか、など）

信楽ためきは、「他抜き」、他者より抜きん出るという縁起担ぎで古くより商人に愛されてきました。そこで私達が提案するまちでは、忍びの国であれど、忍ばない、他より抜きん出たまちを目指し、以下の2点を宣言します。

- ①甲賀市の観光資源をフル活用し、世界に突出した観光の「忍びの国であれど忍ばないまち」として未来を駆け抜けます。
- ②甲賀市に住む一人ひとりがそれぞれの分野で活躍する「ためき」として躍動するまちを目指します。

- 実現したい「未来の甲賀市」と比べて「2022年の甲賀市」の問題は何ですか？その原因は何ですか？調査結果なども交えて説明してください（最大3つ）。

現状の甲賀市が観光都市ではない理由 → 認知度・PR不足

甲賀忍者、信楽焼、朝ドラの撮影場所、etc...
観光資源は多くあるが、私達の調査では
阪神地域の学生における認知度は低い



信楽焼は知ってるけど、
甲賀市だって知らなかった

こうが市ってどこ？ 長野？
甲賀忍者は知ってる



若者に刺さる広告戦略が必要！！

甲賀市だけでしか食べられない 飲食店・グルメの地域の偏り

信楽町にはおしゃれなカフェなど、
飲食店が多いですが、
甲賀市全体としてはまだまだ少ない。



#信楽カフェ **13,000件**
#甲賀カフェ **3,060件**

**信楽町以外でも
飲食店の増加が必須！**

有能な人材が埋もれてる！

**女性の就労率4割、
外国人居住者が多い**

甲賀市の立地や場所からして
会社が少ない。
企業側と働く人のミスマッチで、
雇用場所が限定される。

裏面に続きます

- 「2022年の甲賀市」の問題を解決する政策の名前を記載してください（最大3つ／スペースがあればごく簡単に内容も説明してください）。

令和ためき競争ぼんぼこ

信楽タヌキを模した着ぐるみレース
インパクトのあるイベントを行うことで、
甲賀市に注目してもらおうためのきっかけを作る。

甲賀観光計画 step Zero

飲食店の開業支援。
観光と店の相乗効果により、甲賀市でより楽しんで
もらう。

人材ぼんぼこ

甲賀市の幅広い人たちを非正規雇用として地元SNS
のPRなどを運営していただく。
多角的な視点からの甲賀市を伝えることで、魅力を世
界中の方々に理解してもらう。

- 「2023年から始める重点政策」（最大3つ）がどのように「2022年の甲賀市」の問題を解決して、「未来の甲賀市」のビジョンを実現させるのか？説明してください。

令和タヌキ競争ぽんぽこ

信楽タヌキのエア着ぐるみレース

SNS映えで若年層・外国人観光客を甲賀市に呼び込む

鮎川河川敷、忍者村、古城が丘公園など甲賀市の名所で開催！



観光飲食店の興隆を甲賀に

腹が...減った。

観光して、次は？ そう、お腹が空きます。例えば京都を観光する際、アナタはガストに入りたいですか？ できれば和食の店や、抹茶パフェを...と思うのが観光客ですよね？

忍、信楽...他にも甲賀市の観光資源はいくつもあります。では、その雰囲気に沿ったお店は？

観光⇄店

観光と飲食店は、相乗効果も相まって甲賀市を活気づかせてくれます。

”甲賀市の店”としての飲食店経営を促進します！

人材ぽんぽこ

甲賀経済圏創出だ！

- ・ 財団法人を商工会議所と設立し、**起業家育成事業と融資**を行う。
- ・ 簡単な活躍の場として、**SNS運営**を市民の皆様へ解放！
(バリアフリー情報や観光マップ作成、翻訳)

人材を発掘、育成し、「甲賀市」底上げ！

- 「2023年から始める重点政策」（最大3つ）ごとに、かかる費用（予算）の総額と、だいたいの内訳を説明してください。

タヌキの着ぐるみ代 2万×20着=40万
有償ボランティア 日給8000円×10~15人=8万~12万
スタッフの昼食など 1000円×20人=2万

=一回約54万円

中づり広告 100万円
SNS 0円
土地のレンタル代 0円
一年14回開催で、たぬきの着ぐるみは使い回す。

計336万/1年

観光向け事業計画を提出した既存飲食店へ支援
一店につき10万~50万

観光向け事業計画を提出した新規飲食店への支援
一店につき50万~100万

以上の補助を政策3で設立する財団法人主体で行う

非正規雇用者 時給950円×10人×週20時間×50週=950万円/1年
財団法人設立資金 1000万

- 実現したい「未来の甲賀市」のビジョン（理想像）をキャッチコピーとして表現してください。

親も子供も幸せな甲賀市

- 実現したい「未来の甲賀市」のビジョン（理想像）具体的に説明してください。（市民の暮らしぶりや何に幸せを感じているか、市内でどんな光景が見られるか、など）

多くの人が住みやすい甲賀市にしたい。自然豊かな甲賀市が好きな人が多い。ショッピングモールをつくったりするなどして他の市に住む人がたくさん集まるのも良いが、騒音などによって住みにくくなるよりは遊ぶところは少なくとも落ち着いた生活ができるような甲賀市であってほしい。

- 実現したい「未来の甲賀市」と比べて「2022年の甲賀市」の問題は何ですか？その原因は何ですか？調査結果なども交えて説明してください（最大3つ）。

問題：交通が不便であること

しかし現実には私の身近な人たちが甲賀市を出て暮らしている。その理由を尋ねると、ひとつには交通の不便と、交通の不便がもたらす様々な弊害があった。

そこで甲賀市の成人式で調査されたアンケートを調べると、甲賀市に住み続けたくないと思った人の理由に「交通の不便」があった。2015年、2020年、2022年に甲賀市が成人式で行ったアンケートによると、「十年後に甲賀市に住んでいたいですか」と質問したところ「いいえ」と答えた人の割合は年順に43.8%、53.7%、39.1%であった。また「いいえ」と答えた人の理由で「交通が不便だ」と答えた人の割合は12.1%、13.7%、14.2%であった。

- 「2022年の甲賀市」の問題を解決する政策の名前を記載してください（最大3つ／スペースがあればごく簡単に内容も説明してください）。

通勤・通学がしやすいよう

バスの活用

地元の人が市内を活発に動くように

地元の人にも楽しめる
イベント開催

若者に甲賀市の魅力を伝える

観光スポット発信活動

- 「2023年から始める重点政策」（最大3つ）がどのように「2022年の甲賀市」の問題を解決して、「未来の甲賀市」のビジョンを実現させるのか？説明してください。

バスで甲賀市を活性化

目標：交通の不便さを解決する

受益者：学生や通勤する社会人など、毎日外出する必要のある市民

期間：2023年から構想1年、試行期間7年、以後は本格的な運行を継続する

バスの本数を朝と夕方の通勤・通学で多くの方が利用する時間に増やす。

休日には定期的なイベントを開催して、それに合わせて会場への直通バスをつくることでイベントに行きやすくして多くの人に甲賀市へ来てもらう。

バスの利用が増えるとバス会社が利益があると判断すれば継続できるかもしれない。

定期的なイベント開催

目標：市民自身が甲賀市特に信楽を楽しむ

受益者：甲賀市で生活し、自ら外食などを楽しめる年齢以上の市民

期間：2023年から

陶芸の森や信楽運動公園にある屋根付多目的広場でマルシェを月に1回程度行う。

信楽にあるカフェやご飯屋さんを集まってもらう。信楽焼のお皿やコーヒーカップで飲食物を提供してもらえば、お客さんが実際に信楽焼を使いその良さを実感してもらうことができる→信楽焼の魅力も発信できる

観光スポット発信活動

目標：若者に信楽の魅力を知ってもらう

受益者：甲賀市内外の若者で、SNSを日常的に使い、SNSからも生活情報を得ている人たち

期間：2023年から

地域の高校生や大学生に協力してもらい、何人かでバスで行くことができる観光地やカフェに実際に行ってもらい写真を撮ってもらう。

その写真を彼らのInstagramに投稿してもらって、若者に信楽の魅力を知ってもらう。

- 「2023年から始める重点政策」（最大3つ）ごとに、かかる費用（予算）の総額と、だいたいの内訳を説明してください。

バスを毎時1往復増
増便する費用 約2600万円

(計算中)

(計算中)

内訳 人件費 57%
燃料費 8%
車両修繕費 6%、
車両償却費 6%
その他の費用が23%

実現したい「未来の甲賀市」のビジョン／解決したい「2022年の甲賀市」の問題

- 実現したい「未来の甲賀市」のビジョン（理想像）をキャッチコピーとして表現してください。

つくる未来 つなぐ甲賀市 ～教育×まちづくり～

- 実現したい「未来の甲賀市」のビジョン（理想像）具体的に説明してください。（市民の暮らしぶりや何に幸せを感じているか、市内でどんな光景が見られるか、など）

- ・起業家教育を通して、甲賀市の未来を担う人材を育てるまち
- ・Uターン者の増加で、新たな甲賀市をつないでいくまち

- 実現したい「未来の甲賀市」と比べて「2022年の甲賀市」の問題は何ですか？その原因は何ですか？調査結果なども交えて説明してください（最大3つ）。

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ①・人口が減少しているのは、若者の希望する学校や職種が地元で見つからないから <ul style="list-style-type: none"> ・適切な起業家教育不足しているので雇用者が増えない ・甲賀市に愛着を持っている人があまりいない ②・名古屋や大阪など大都市が周辺にあり、そこに人口が流出している <ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの将来のためになるような、実践的な起業家教育をしていない学校がほとんど ・地域創生の学習も不十分であるため、地域に愛着がない ③・RESASによると、甲賀市の中で主に10代20代が市外に流出する傾向にある <ul style="list-style-type: none"> ・成人式の定住アンケートによると、10年後甲賀市に住んでいたくない人の内、16%の人の理由は、「（自分が行きたい）学校や職場がないから」だった | <ul style="list-style-type: none"> ①近年、10代～20代の若者の甲賀市からの人口流出が加速している。甲賀市を一度離れた人が戻ってきていない状態にある。 ②甲賀市に戻ってきたいと思う人たち（Uターン希望者）への情報が少ない。また、甲賀市側に受け入れる体制が整っていない。 ③甲賀市の人口統計から、若者の甲賀市離れが激しいことが読み取れる。15～19歳→20～24歳では甲賀市から移動していく人数が、最近25年程では常にマイナスである。つまり若者の人口が減少し続けている。 |
|--|---|

- 「2022年の甲賀市」の問題を解決する政策の名前を記載してください（最大3つ／スペースがあればごく簡単に内容も説明してください）。

甲賀市への愛着を育て地元を支える人としての主体性や経験値を提供

中学生の起業家教育の推進

～株式会社〇〇中学校の経営を通して～

Uターン者を迎え入れることで人口流入が見込める。

甲賀市へのUターン支援

～迎える側への逆転戦略～

- 「2023年から始める重点政策」（最大3つ）がどのように「2022年の甲賀市」の問題を解決して、「未来の甲賀市」のビジョンを実現させるのか？説明してください。

①政策名 中学生の起業家教育の推進

～株式会社〇〇中学校の経営を通して～

- ②目的 ・甲賀市に若い人がおらず、Uターン者も少ないため、起業家教育で経営や会社について学ぶことで、将来甲賀市に戻って起業してくれたり、甲賀市の運営について貢献してくれる

- ③受益者 中学校とその保護者、甲賀市民全体

- ④不利益者はなし

- ⑤期間 1年サイクルで10年以上

- ⑥内容

中学生で会社を運営する

- ・実際に活動する前に、レクチャーを受ける
- ・社長・部長の選出をする他、入社式もするなど、本格的に行う
- ・会社は生徒が運営し、何か商品売る(甲賀市の特産品など)
- ・学校ごとか、一つの学校をグループに分け、その中で売り上げを競い合う
- ・部署(生産管理部、経理会計部、広告宣伝部)に分かれるかなども、各グループでそれぞれ
- ・何を売るかや、店のコンセプト、商品の値段などは全て生徒が決める
- ・イベント等の他、改装した空き家で販売
- ・学校の授業を絡める(英語では外国人観光客への対応を想定したスピーキングの練習)
- ・活動の最後に決算報告をしたり、活動の様子を校長や市長などに報告する

①政策名 甲賀市へのUターン支援～迎える側への逆転戦略～

- ②解決する問題：

- ・若い世代の人口増加
- ・使っていない家をUターン希望者へ貸すことで、空き家の有効活用が出来る
- ・甲賀市で起業する人が増えることで市の活性化につながる

- ③受益者 若い世代（Uターン就職したい人）

- ④不利益者はなし

- ⑤期間 10年以上

- ⑥内容

Uターン希望者ではなく、“迎える側”へ焦点を当てたUターン政策

- ・迎える側の使わない家をUターン希望者へ提供
- ・地域コミュニティとUターン希望者の仲介となる
- ・起業しやすい環境を作る（スタートアップ支援）

- 「2023年から始める重点政策」（最大3つ）ごとに、かかる費用（予算）の総額と、だいたいの内訳を説明してください。

⑦予算 400万円

- ⑧内訳
- | | |
|--------------|------|
| ・ 空き家改装費 | 250万 |
| ・ 商品 | 75万 |
| ・ 講演会など事前学習費 | 20万 |
| ・ その他雑費 | 50万 |
| ・ 販売場所 | 5万 |

⑦予算 500万円

- ⑧内訳
- ・ 手数料、人件費50万円
 - ・ スタートアップ支援450万円

● 実現したい「未来の甲賀市」のビジョン（理想像）をキャッチコピーとして表現してください。

「私甲賀市で育ってよかったわ！」～個性光る子どもが育つまち～

● 実現したい「未来の甲賀市」のビジョン（理想像）具体的に説明してください。（市民の暮らしぶりや何に幸せを感じているか、市内でどんな光景が見られるか、など）

まちの中には、子どもたちの居場所がたくさんあり、子どもたちはたくさんの人に見守られ、様々な人に出会い、つながりをつくることができる。子どもたちは、安心感の中で、たくさん遊び、豊かに学び、やりたいことを見つけ、自分らしくのびのびと育っていくことができる。

まちの中には子どもたちの声があふれ、子どもがいない世帯の人たちも子どもたちと関わる機会があり、子どもたちからパワーをもらうことができる。田舎ならではの、余裕のある子育てを求めて、市外から移住してくる人もいる。

まち中の人たちが、未来を支えてくれる子どもたちが幸せに育っていくために、地域の宝として守っていけるまち。

● 実現したい「未来の甲賀市」と比べて「2022年の甲賀市」の問題は何ですか？その原因は何ですか？調査結果なども交えて説明してください（最大3つ）。

- ①子どもたちも権利の主体であることや、子どもたちがどんな権利をもっているかということも多くの人知らない。
- ②子どもの権利条約を批准してから30年近く、その内容が国内法にされてこなかった。
- ③Save the Childrenが行った調査では約4割の大人が子どもの権利条約を知らなかったと回答。8割以上の大人や子どもが、守られていない権利があると感じている。

- ①自分にあった学びの場・居場所がない子どもたちがいること。
- ②子どもたちの多様な学びの場・居場所が不足していること。適応指導教室は対象に応じて週に2、3回しか開いていない。民間のフリースクールに通うためにはお金がかかり、通えるかどうかは経済状況に左右される。
- ③甲賀市に問い合わせた結果、令和3年度には208人の不登校の子どもたちがいたが、適応指導教室の利用者は10人とどまっていたことがわかった。（適応指導教室の存在も子どもたちのよりどころになっており、とても大切だと思います。しかし、子どもたちは多様であるため、もっと多様な場が必要だと考えます。）

- ①学校と家以外の居場所が少ないこと。人間関係を築く機会が限られていること。
- ②学校と家以外の居場所が不足していること。様々な人とつながる機会が少ない。また、やりたいことが十分にできる場所がないこと。
- ③就活room tugumi にインタビューをした結果、人と人とのつながりで頼れる人がいることは安心できることがわかった。

● 「2022年の甲賀市」の問題を解決する政策の名前を記載してください（最大3つ／スペースがあればごく簡単に内容も説明してください）。

『子どもの権利条例をつくろう』
地域に根ざした、ローカル版子どもの権利条約をつくること。

『いろいろな教育の場をつくろう』
子どもたちが自由に学びの場を選べるように、選択肢をたくさんつくること。

『みんなに居場所を』
子どもたちが安心できる居場所をつくること。

● 「2023年から始める重点政策」（最大3つ）がどのように「2022年の甲賀市」の問題を解決して、「未来の甲賀市」のビジョンを実現させるのか？説明してください。

- ①『子どもの権利条例をつくろう』
- ②子どもたちも権利の主体であり、彼らの権利を保障することが大切であるということをとくさんの人に知ってもらうことと彼らの権利が保障される環境をつくっていくこと。そのことによって、子どもたちがとびっきり幸せな甲賀市をつくっていくこと。
- ③0歳～18歳の子どもたち
- ④特になし
- ⑤2年間
- ⑥できるだけとくさんの人たち（特に子どもたち）の意見やアイデアを集め、子どもの権利条例／子ども基本法に沿った形で、自分たちの地域にあった条例を自分たちの言葉でつくる。
具体的には、学校や公募して集まった市民とともにワークショップ形式の対話で中身を決めていく。（参考：マザーレイクゴールズは素案をもとに市民や学生対象のワークショップで出た意見を加え、完成しました。）
- ①『いろいろな教育の場をつくろう』
- ②まずは、不登校の子どもたちや学校にしんどさを感じている子どもたちが通いたいと思う場所・通える場所をつくり、彼らの『教育を受ける権利』を保障する。
ゆくゆくは、学校、様々なタイプのフリースクール、オルタナティブスクール、公的な居場所など、とくさんある選択肢の中から、子どもたちが自分にあった学びの場を選び、自分の能力を最大限に伸ばしていける環境をつくる。
- ③小学生～高校生の子どもたち
- ④特になし
- ⑤2050年まで
- ⑥児童クラブと同じような形で、民間委託のフリースクールを、空いている公共施設や空き家などを利用してつくる。
その際、『子どもたちの権利・幸せを保障する場である』ということ委託先を決める審査では重視する。
- ①『みんなに居場所を』
- ②不登校の子どもたち、家や学校がしんどい子どもたち、つながりを必要とする子どもたち、やりたいこと見つけたい子どもたち、やりたいことがある子どもたちが安心できる居場所で自由に過ごし、いろんな人と出会い、つながることができること。
また、悩みを相談したり、やりたいことを全力で応援してくれること。
- ③12歳～22歳の若者
- ④特になし
- ⑤2050年まで
- ⑥空いている公共施設や空き家を利用して、民間に委託をして運営する。なんでも否定されないで相談できる人がいて、やりたいことができるためのものが揃っている。（Wi-Fi、コンセント、PC、本、漫画、ミシン、楽器など）
また、お話し会や仕事体験、国際交流ができるイベントを開催する。イベントを主催することもできる。

● 「2023年から始める重点政策」（最大3つ）ごとに、かかる費用（予算）の総額と、だいたいの内訳を説明してください。

- ⑦500万円
- ⑧人件費400万円、その他経費100万円
- ⑦1校につき1000万円
（1校から始め、需要に合わせて増やしていく。）
- ⑧人件費800万円、その他経費200万円
（参考：児童クラブ30人1クラス規模＝1200万円）
- ⑦1000万円
- ⑧人件費800万円、その他経費200万円

- 実現したい「未来の甲賀市」のビジョン（理想像）をキャッチコピーとして表現してください。

今日も図書館にい“こうか”

- 実現したい「未来の甲賀市」のビジョン（理想像）具体的に説明してください。（市民の暮らしぶりや何に幸せを感じているか、市内でどんな光景が見られるか、など）

未来の甲賀市の理想像として、旧5町全てにある図書館を活かして市民の交流や町の活性化が進むようになってほしいと考える。

図書館を単に「本を借りて、返す場所」にするのではなく、長時間滞在できるような市民の居場所にするすることで、地域ごとの格差を無くしつつ、市民同士が会話や甲賀の特産品や芸術などを通してつながっていく市になっていけばよいと考える。

- 実現したい「未来の甲賀市」と比べて「2022年の甲賀市」の問題は何ですか？その原因は何ですか？調査結果なども交えて説明してください（最大3つ）。

貴生川駅は甲賀市における中心駅で、周辺人口も増加傾向にあるにもかかわらず、駅周辺に賑わいをもたらす施設が不足している。また、現在の水口図書館は開館から40年余りが経過し、市民の憩いの場となるような滞在型施設へのリニューアルが必要だと考える。

そこでリニューアルに際し、貴生川駅南口周辺に図書館を移転することにより駅周辺への集客が見込まれ地域の発展に繋がられる。また、駅直結にすることにより、学生の図書館利用を促進できることも考えられる。

現在の甲賀市では、市民の憩いの場所が少ないことが問題点として挙げられる。そこで、旧5町に一つずつ存在する図書館を活かし、市民の交流の場、あるいは町づくりの中心地となるような場所にしていきたい。また、旧5町間の格差も埋まるのではないかと考える。

実際に5つの図書館で、司書の方にインタビューを行ったところ、親子連れや高齢者以外の利用が少ないということが分かった。そのため、より幅広い世代の人々が利用したくなるような工夫が必要だと感じた。

- 「2022年の甲賀市」の問題を解決する政策の名前を記載してください（最大3つ／スペースがあればごく簡単に内容も説明してください）。

水口図書館の建て替え
～貴生川駅を中心とした複合施設～

市民の参画社会に向けて
～図書館×特産×市民～

- 「2023年から始める重点政策」（最大3つ）がどのように「2022年の甲賀市」の問題を解決して、「未来の甲賀市」のビジョンを実現させるのか？説明してください。

水口図書館の建て替え ～貴生川駅を中心とした複合施設～

貴生川駅周辺の特区構想の目玉として、水口図書館を移転リニューアルすることで、賑わいが生まれ市民の憩いの場・教養の場として駅周辺が発展していくと考えられる。

図書館にはラウンジや自習室を設けることにより、近年のニーズに合わせた滞在型複合施設として市民に慕われることを想定する。

併設するカフェやギャラリー展示などの運営は市民が主体的に参画できるシステムの構築を目指す。

これにより、貴生川駅周辺在住の市民や通勤通学で利用する市民にとっては利便性が高まると考えられる。一方で、現図書館の跡地には子育て支援施設や日本語学校などの入居を想定する。

市民の参画社会に向けて ～図書館×特産×市民～

市内5つの図書館を、幅広い世代の市民に長く慕われるように活用方法やPRを多面化することを目指す。それにより、20年後の甲賀市において旧5町の平等化を図り、市民のコミュニティがより発達すると考える。

政策の期限は設けず、市民の相互的な活動によって持続可能なものとなり、地域に根付くことを目標とする。

具体的な内容として、各図書館が今まで行ってきた活動、または使われていた設備を活かし、コミュニティカフェ、ギャラリー展示やイベント開催をすることを検討する。

- 「2023年から始める重点政策」（最大3つ）ごとに、かかる費用（予算）の総額と、だいたいの内訳を説明してください。

予算総額：1,020,000千円

【内訳】

850㎡×3階×400千円＝1,020,000千円
(一階分の面積 × 階数 × 1㎡あたりの単価)

予算総額：3,000千円程度

【内訳】

キッチンカー本体：3,000千円程度

※初期費用として市がキッチンカーを購入し、NPO法人や事業者など様々な団体に有償で貸し出すことで、最終的には回収できる形態を目指す。

- 実現したい「未来の甲賀市」のビジョン（理想像）をキャッチコピーとして表現してください。

ひろがる、つながる、シェアする甲賀市

- 実現したい「未来の甲賀市」のビジョン（理想像）具体的に説明してください。（市民の暮らしぶりや何に幸せを感じているか、市内でどんな光景が見られるか、など）

新しいアイデアとこれまでの経験が夢をつなぐまち

- 実現したい「未来の甲賀市」と比べて「2022年の甲賀市」の問題は何ですか？その原因は何ですか？調査結果なども交えて説明してください。

【調査】

- ・フィールドワーク
- ・市民の方々へのアンケート
- ・夢の学習の方々、移住者の方、
甲賀市内で開催されているイベントの実行委員の方々 →課題はたくさんある！

【政策で取り上げる問題】

- ・支援制度や各コミュニティの存在が知られていない
- ・若者と高齢者のつながりが減っている
- ・イベントやお祭りの企画・運営に若者がいない

【原因】

- ・甲賀市の魅力を発信できるシステムがない
- ・若者が甲賀市のことを知り、向き合う機会がない

- 「2022年の甲賀市」の問題を解決する政策の名前を記載してください（スペースがあればごく簡単に内容も説明してください）。

甲賀市学生部会の設立

- ・各イベントの実行委員会や自治振興会等の各団体から要望を聞き、課題解決のためのアイデアを出し合う
…甲賀市の文化や伝統をベースに、学生の新しいアイデアを取り入れていく
- ・甲賀市の市政に学生が関わることで若い世代にとっての住みやすさを実現していく
- ・甲賀市内外に向けた情報発信を若者の目線で考える
…甲賀市の支援制度や観光施設がターゲットとしている層が見ている媒体で効果的に情報を届ける

- 「2023年から始める重点政策」（最大3つ）がどのように「2022年の甲賀市」の問題を解決して、「未来の甲賀市」のビジョンを実現させるのか？説明してください。

【学生部会の設立】

目的：甲賀市でのイベントの後継者不足の解決

継続的に新しいアイデアが取り入れられる仕組みを作ること

対象：市内の高校生・市内外の大学生/自治振興会・観光協会などの各団体

内容：学生部会の設置

学生部会とは??

- ・所属：甲賀市役所 政策推進課
- ・構成：最大15人(うち部長1人、副部長1人)高校生(市内):大学生(市外も可)=2：1程度
- ・活動期間：1年、毎月1～2回のミーティング(ハイブリット形式)
- ・活動内容：市内の各団体から寄せられた要望(課題)に対する解決策、アイデアを練る
甲賀市内で実施する新規事業やイベントの立案、既存イベントへの運営補助
SNS(Instagram・Twitter)の運営

- 「2023年から始める重点政策」（最大3つ）ごとに、かかる費用（予算）の総額と、だいたいの内訳を説明してください。

【予算合計】 2030万円

財源：地方創生加速化交付金（全額補助） / 地方創生推進給付金（半額補助）

【内訳】

- ①水口城南駅の再開発費(学生部会の拠点地)：土地代約1500万+改装費500万 合計2000万円
近江鉄道と協同で開発を進める＝官民連携
- ②学生部会運営費：拠点の光熱費約10万+消耗品費用約10万 合計約20万円
+拠点の維持・管理費：学生のアイデアを必要としている団体/企業から寄付金を募る
- ③広報活動費(市内高校生の数に応じた広報物の印刷費)：合計10万円
- ④政策実行費(部会が立案した事業を実行するための費用)：約300万円
(政策の内容によって補助金対象可) →部会が答申し甲賀市議会に提案する

- 実現したい「未来の甲賀市」のビジョン（理想像）をキャッチコピーとして表現してください。



甲賀市で描こうか 私たちの活気ある未来へ！！

- 実現したい「未来の甲賀市」のビジョン（理想像）具体的に説明してください。（市民の暮らしぶりや何に幸せを感じているか、市内でどんな光景が見られるか、など）

私たちのビジョンは2040年の甲賀市にいっぱい人が来て交流が盛んになって、趣味について話したりさまざまな活動を行ったりできるような、「盛り上がってる甲賀市」を作っていきたいと考えています。

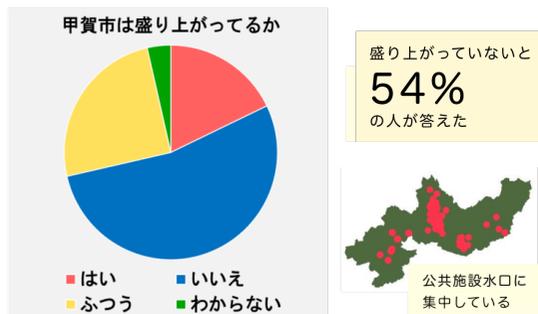


- 実現したい「未来の甲賀市」と比べて「2022年の甲賀市」の問題は何ですか？その原因は何ですか？調査結果なども交えて説明してください（最大3つ）。

問題： 地域市民同士の交流が少なく、地域活動がさかんに行われていない。
市民が甲賀市に対して愛着がない

原因： 市民同士で交流する機会がない。
身近にゆっくり過ごしたり活動できる場所がない。

調査：



問題： 甲賀市が自慢できない
忍者の知名度が低い
市民と関わり深い観光施設がない

原因： 甲賀市にこれってという観光地がない
市民も県外の人も甲賀市の観光地を知らない

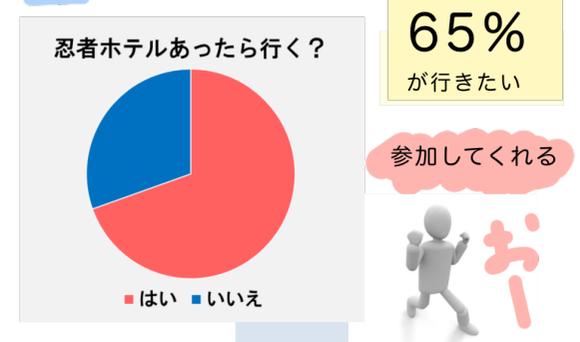
調査：



問題： 市民が地域活動に参加できていない
甲賀市に興味があっても実際に参加できている人が少ない

原因： イベントはあるが、発信できていない
楽しく気軽に参加できるイベントが少ない

調査：



- 「2022年の甲賀市」の問題を解決する政策の名前を記載してください（最大3つ／スペースがあればごく簡単に内容も説明してください）。

【miniまる一む計画】

空き家を改造して、市民の住まいの近くに交流できるスペースを作ろう！！

【四六時中忍者計画】

空き家をまるでタイムスリップしたような、気分が味わえる忍者屋敷ホテルに！！

【忍者アイデアコンテスト】

忍者屋敷ホテルの内装や家具、サービスを市民の皆さんで考えよう

- 「2023年から始める重点政策」（最大3つ）がどのように「2022年の甲賀市」の問題を解決して、「未来の甲賀市」のビジョンを実現させるのか？説明してください。

【miniまる一む計画】

目的: 身近に地域の交流の場を設ける
そして活躍できる場を！！
市に自身に愛着を

効果: 新しいコミュニティで市民の個性を！
関係が生まれるとこで助け合い
地域で子供を育てよう

利益: 市民がゆっくりできる場ができ、
生きがいを！
育児や介護を地域で助け合える！

不利益: 家の近くの人とトラブルに
騒音問題

【四六時中忍者計画】

目的: 景観の改善 土地の活用
甲賀市といえば忍者といえる観光地に
メディア効果

効果: 甲賀忍者の知名度をあげる
観光客が増えることで収入が増加する
地域の産業が盛り上がる

利益: 親子連れが身近で遊べる場に
甲賀市といえば自慢できる街に
他の地域人と交流を

不利益: 騒音問題・ゴミ問題

【忍者アイデアコンテスト】

目的: 市民と市がともに地域を盛り上げるた
めに活動する
市民に行政を身近に感じさせてる

効果: 市民が参加することで甲賀市に愛着を
市が市民の声に寄り添う



- 「2023年から始める重点政策」（最大3つ）ごとに、かかる費用（予算）の総額と、だいたいの内訳を説明してください。

1年目 10件で

17050万円

10件	費用内訳	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
初期投資	建設費	5000				
	設備費	5000				
人件費	警備員	3500	3500	3500	3500	3500
	清掃員	3500	3500	3500	3500	3500
維持費	水道光熱費	50	50	50	50	50
合計	合計予算	17050	7050	7050	7050	7050

1年目 5件で

9160万円

5件	費用内訳	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
初期投資	建設費	5000				
	家具費	1000				
人件費	フロントスタッフ	1750	1750	1750	1750	1750
	ハウスキーピング	1750	1750	1750	1750	1750
維持費	水道光熱費	25	25	25	25	25
	消耗品費用	60	60	60	60	60
その他	忍者の衣装	25				
合計	合計予算	9610	3585	3585	3585	3585

1000万円

人件費 : 600万
宣伝費 : 300万
その他 : 100万



- 実現したい「未来の甲賀市」のビジョン（理想像）をキャッチコピーとして表現してください。

生き方を決めるのは世間じゃない、あなただ！

- 実現したい「未来の甲賀市」のビジョン（理想像）具体的に説明してください。（市民の暮らしぶりや何に幸せを感じているか、市内でどんな光景が見られるか、など）

不登校＝ネガティブと言われない甲賀市

- 実現したい「未来の甲賀市」と比べて「2022年の甲賀市」の問題は何ですか？その原因は何ですか？調査結果なども交えて説明してください（最大3つ）。

不登校にネガティブなイメージを持っている人が多い
(イメージ調査の結果、ネガティブが67.9%)

甲賀市にあるフリースクールが少ない
(甲賀市にフリースクール認定されている施設は
市外含めわずか6か所)

- 「2022年の甲賀市」の問題を解決する政策の名前を記載してください（最大3つ／スペースがあればごく簡単に内容も説明してください）。

全国にいる学校に行っていない中高生が集まりたいと
思えるいばしょを作る

- 「2023年から始める重点政策」（最大3つ）がどのように「2022年の甲賀市」の問題を解決して、「未来の甲賀市」のビジョンを実現させるのか？説明してください。

学校に行っていない中高生のいばしょ作り

対象 学校に行っていない、行きづらい中高生 期間 2023～

参加者それぞれが自分の意見、行動に責任をもち話し合う場所を作ること

責任を持って話し合うことで自分に自信を持つことに繋がる。
自信を持てれば前向きな気持ちになり将来社会と関わりやすくなる。

さらに親の都合などで来れない人にバスの回数券を配布し
より来やすくなる仕組みを作る。

- 「2023年から始める重点政策」（最大3つ）ごとに、かかる費用（予算）の総額と、だいたいの内訳を説明してください。

予算総額 817万9000円

- 人件費570万3000円
- 場所費34万8000円
- バス回数券172万8000円
- その他40万円